

# モザイク・クアルテット

## QUATUOR MOSAÏQUES

■ウィーン・コンツェルトハウス・モーツァルトザール、  
ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホール、  
ロンドン・ウイグモアホール、  
パリ・シャトレ座……  
ヨーロッパを席卷する  
注目の古楽器弦楽四重奏団が再び来日。

■ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスの  
コンサート・マスターをはじめとするメンバーに、  
バロック・チェロの名手コワンが加わり、  
古典の名曲に新たな光を与える。



18th  
AUTUMN  
KYOTO  
MUSIC FESTIVAL



# 京都の秋 音楽祭

■エーリッヒ・ヘーバルト [第1ヴァイオリン]  
■アンドレア・ビショッフ [第2ヴァイオリン]

■アニタ・ミッテラー [ヴィオラ]  
■クリストフ・コワン [チェロ]

**Erich Höbarth**  
— 1st violin —

**Andrea Bischof**  
— 2nd violin —

**Anita Mitterer**  
— viola —

**Christophe Coin**  
— violoncello —

2014  
10 | 26  
回

14:00開演  
(13:30開場)

## 京都コンサートホール KYOTO CONCERT HALL アンサンブルホールムラタ

■全席指定: ¥5,000

■主催: カメラータ・トウキョウ  
■共催: 京都市 / 京都コンサートホール  
(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

■チケット取扱:  
京都コンサートホール チケットカウンター  
075-711-3231 (10:00~17:00 / 第1・3月曜日休館)

オンラインチケット購入

京都コンサートホール

検索

モーツァルト  
弦楽四重奏曲 第17番  
変口長調 K.458 「狩」

**W.A.Mozart**  
String Quartet No.17  
in B flat major K.458  
"Hunt"

シューベルト  
弦楽四重奏曲 第10番  
変ホ長調 D.87

**F.Schubert**  
String Quartet No.10  
in E flat major D.87

ベートーヴェン  
弦楽四重奏曲 第2番  
ト長調 作品18-2

**L.v.Beethoven**  
String Quartet No.2  
in G major op.18-2

# QUATUOR MOSAÏQUES

## profile

**モ**ザイク・クアルテットは、ニコラウス・アーノンクールが主宰するウィーン・コンツェントゥス・ムジクスのソリストやメンバーであり、そこで培われた長年の経験をオリジナル楽器による弦楽四重奏の分野において試みることを目指し、1985年に創設された。

☞彼らの高度な個人的な演奏は、ただ“信憑性”を求めるだけでなく、現在のヨーロッパにおける弦楽四重奏の演奏様式へとつながる、伝統的な視点に基づいている。それ故に、第1ヴァイオリンのエーリッヒ・ヘーバルトが数年メンバーとして活躍していた伝説的なヴェーグ・クアルテットから受けた影響が基盤となって、現在の彼らの解釈に現れていることは明らかである。

☞モザイク・クアルテットはガット弦を張ったピリオド楽器の特徴を最大限に生かした透明感溢れる音色で、作品本来の魅力を引き出している。現在、古楽器による弦楽四重奏団としては最高の団体の一つに数えられている。

☞ヨーロッパ全土でのコンサートやエジンバラ、ザルツブルク、ルツェルン、モントルー、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、ブレーメン、ウィーン、パリ、ロンドンなど多くの著名な音楽祭に招かれている。

☞1993年と1996年にはグラモフォン・アワードを受賞するなど、その録音も高く評価されており、ディスコグラフィには、ハイドン、モーツァルト、ボッケリーニ、ジャダン、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーン等がある。

☞1998年には初来日を果たし、2000年にはアメリカ、オーストラリアへの演奏旅行を行った。またギドン・クレーメルとアンドラーシュ・シフの招きにより、彼らの主宰する音楽祭にも出演している。

### ☐ エーリッヒ・ヘーバルト [第1ヴァイオリン]

Erich Höbarth, 1st violin

ウィーン生まれ。グレーテ・ビーダーマンとフランツ・サモイル、さらにザルツブルクでシャンドール・ヴェーグに師事し、彼の弦楽四重奏団に1978年から1980年まで在籍した。1980年から1986年までウィーン交響楽団のコンサート・マスター。1981年よりニコラウス・アーノンクールの主宰するウィーン・コンツェントゥス・ムジクスのコンサート・マスター及びソリストを務める。また、ウィーン弦楽六重奏団の第1ヴァイオリン奏者でもあり、モダン楽器とピリオド楽器の両分野において活躍している。

### ☐ アンドレア・ビショッフ [第2ヴァイオリン]

Andrea Bischof, 2nd violin

フォアアールベルク生まれ。ウィーンでグレーテ・ビーダーマンとトーマス・クリスチャンに師事。1980年よりオーストリア・パッサウのリズテンのコンサート・マスター兼ソリスト。ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスのメンバー。ウィーン音楽大学にて室内楽の教鞭をとる。

### ☐ アニタ・ミッターラー [ヴィオラ]

Anita Mitterer, viola

リンツ生まれ。ザルツブルクでユルゲン・ガイゼ、ブラハでアントニン・モラヴェック、ウィーンでトーマス・クリスチャンに師事。ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスのメンバーであり、ザルツブルク・バロックアンサンブルを率いる。ザルツブルクのモーツァルテウムでヴァイオリンとヴィオラを教える。

### ☐ クリストフ・コワン [チェロ]

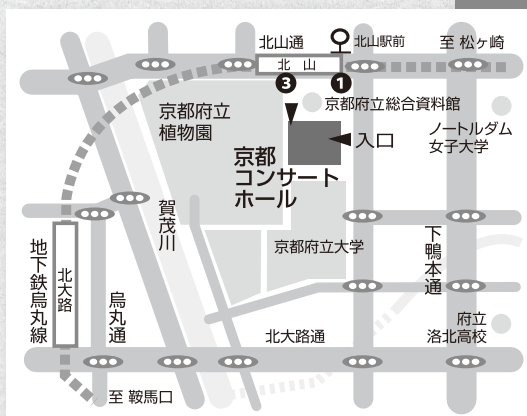
Christophe Coin, violoncello

カン生まれ。カンにてジャック・リボシェに、その後パリでアンドレ・ナヴァラに師事。さらにジョルディ・サヴァールのもとで学び、彼のアンサンブル・エスペリオンXXのメンバーとなった。ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスおよびアカデミー・オブ・エンシェント・ミュージック、イル・ジャルダノ・アルモニコの客演ソリストを務める。1985年にモザイク・クアルテットを創設。パリの国立高等音楽院およびバーゼルのスコラ・カントムルで教鞭をとる。



「モザイク」MOSAICと「音楽」MUSICは同じ語源である。一つのモザイクに私は同時に多数のモザイクを、そして同様に一つの大きな絵を想う。そこで人はどの距離から見れば一番よいかということになる。実際この二元論においては、たとえばモーツァルトの作品の演奏について、一方では鋭角的なリズムやコードの処理、アーノンクールが提言するような：に対して、もう一方では今日の伝統とされるウィーン室内楽のレガートな奏法：例えばヘーバルトの師である故シャンドール・ヴェーグ等が教えてきた方法：という二つの矛盾を、我々はウィーン古典派の作品を演奏しながら真の様式と奏法を明らかにしようと試み、それは一つの成果をもたらしたと確信している。」………「クリストフ・コワン談」

## access



### ☐ 京都コンサートホール

075-711-2980(代表)

### ☐ 京都コンサートホール・チケットカウンター

075-711-3231

受付時間：10:00～17:00

休館日：第1・第3月曜日(休日の場合はその翌日)

公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団  
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26

京都市営地下鉄 烏丸線「北山」駅 ①③番出口 南へ徒歩5分  
<http://www.kyoto-ongeibun.jp/kyotoconcerthall/>